

Tradition

伝統の美



「麗春」 宮下壽紀画

↑ 通常名入位置はここになります。

FU-26 商品No.5526 サイズ変更

れいしゅん みやしひさのり

●【不織布】麗春(宮下壽紀)

■サイズ=90cm×59cm ■名入印刷寸法=6cm×18cm ■化粧箱=大 ■名入刷色=黒

麗(うら)らかな春の日和、美しい桜の元に佇む女性を現代美人画の巨匠、宮下壽紀が描く美人画カレンダーです。女性の美しさなやかさを華やかで優雅に描き上げた感動の傑作です。

プロフィール

みやした ひさのり

宮下 壽紀 (1922~2016)

1922年長野県生まれ。伊東深水を師とし、主に歌舞伎や日本舞踊などの古典舞踊を題材とした現代美人画を描き、日本の伝統美をふまえた優雅で繊細な画風は多くの人に高く評価されている。1989年紺綬褒章功労賞受賞。1998年芸術文化世界賞受賞。大英博物館、山種美術館、水野美術館などに作品收藏。



豊原国周画

↑ 通常名入位置はここになります。

FU-28 商品No.5528

●【不織布】まどい

■サイズ=90cm×55cm ■名入印刷寸法=6cm×18cm ■化粧箱=大 ■名入刷色=白

江戸時代、火事が起きたら現場へ向かい消火に邁進する、「町火消」の勇敢で威勢の良い振る舞いは江戸っ子の「粋」の極みであり、庶民のヒーローでした。誰もがその勇姿に感動し憧れ、その様子を描いた浮世絵は色々な形で現在にも残っています。当時の人気歌舞伎役者を火消しに見立てた、豊原国周による浮世絵を再現した纏カレンダーです。

プロフィール

とよはら くにおか

豊原 国周 (1835~1900)

幕末から明治時代に活躍した歌川派の浮世絵師。初めは豊原国信に学び羽子板押絵の原画を描いていた。嘉永元年頃幕末浮世絵界の大御所・三代歌川国貞(三代豊国)に入門し、師譲りの役者絵で名を挙げた。技量の高さは明治期随一といっても過言ではなく、明治の歌舞伎界を洗練された筆致で描き出し「明治の写実」の異名で知られている。